

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」姥ヶ山校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	お子さまの体の大きさ、障がい特性に応じて支援スペースを都度調整している。	就学に向けて利用するお子さまに対して学校で使う学習機があると良いと感じる。
	②	職員の配置数は適切である	6		・お子さま 1 人につき指導員 1 人の個別療育で落ち着いた課題に取り組んでいる。	各指導員が保護者の皆様に適切な対応、お子さまへの支援がご提供できるように日々スキルアップに努めます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	視覚的に情報が入りやすいように予定表等を使っている。	玄関前にスロープがあると良いと感じる。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	2	お子さまが過ごしやすいように毎日清掃、道具の片づけ等環境整備をしている。	今後もお子さまと保護者様が安心して過ごせるように事業所内の清掃、支援スペースの配置変更等行います。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		各職員が日々振り返りを行い、業務改善に努めている。	業務の優先順位、取り組み方、振り返り等を行い、今後も業務改善に努めます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者様に都度意向等を確認し、業務改善に努めている。	保護者様の要望、意向等を確認し事業所内での業務改善に繋げていきます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2	保護者様よりいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め職員間で話し合っている。	保護者様の感じた事業所の姿を真摯に受け止め、事業所だけではなく職員自身の改善にも繋がります。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	外部の方の感じた印象等を真摯に受け止め業務改善に繋げている。	他機関の感じた自事業所の印象等を真摯に受け止め、早期に改善出来ることはすぐに行動し改善する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		事業所内研修および外部研修に参加し、スキルアップに繋げている。	事業所内研修だけではなく、外部研修にも積極的に参加しスキルアップに繋げる。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		保護者様のニーズを都度確認し個別支援計画書を作成している。	保護者様の困り感、要望等を丁寧に聞きとり、要望に沿った個別支援計画書を今後も作成する。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	発達検査等の結果に沿ってお子さまの得意不得意を確認している。	保護者様への聞き取りだけではなく、発達検査等の詳細が分かるものを参考にし今後も適切にアセスメントを行う。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		保護者様にアセスメントでお子さまへのご要望を細かく確認し、具体的な支援内容を設定している。	今後も保護者様がお子さまに望むことを支援内容に落とし込み、具体的に行う支援内容も記載し作成をしていく。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		個別支援計画書に沿って支援を行っている。	今後も個別支援計画書に沿った支援をご提供できるように情報共有を行う。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	指導員を固定化せず、指導員全員でお子さまのプログラムを考えている。	職員1人ではなく全員でお子さまをサポートできるように、今後もプログラムを全員で考えていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	お子さまが飽きないように同じ教材でも内容を変えて行っている。	今後も指導員を固定化せず、お子さまが楽しく支援課題に取り組めるように都度課題を変えていく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		普段は個別療育、不定期で小	モニタリング毎にお子さまの様子を保護者様と確認し、

				集団療育を行っている。	都度個別支援計画書の内容を変更している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	お子さまをお受けする前に確実に支援内容の確認等の準備をしている。	ご利用で来られるお子さまの確認、取り組む支援内容等について今後も確認を行う。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	翌日の支援の予定、その日の支援の振り返りを行い情報共有している。	今後もお子さまに些細な変化があった場合でもその日のうちに情報共有を行う。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	支援経過記録を毎日作成している。	今後も支援を行なったお子さまの記録を漏れなく作成していく。	
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	個別支援計画書の見直しを行い、保護者様のニーズの確認、お子さまへの支援等の変更を行っている。	今後もお子さまの出来るようになったこと等を確認し、新たな課題について保護者様と話し合い、必要があれば内容の変更を行う。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	5	1	主に支援を行っている指導員又は児童発達支援管理責任者が参加している。	支援に携わっている指導員もしくは児童発達支援管理責任者が会議に参加をする。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	直接訪問し、または電話連絡により連携を図っている。	今後も情報共有および情報交換を積極的に行っていく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	3		重症心身障害児は利用していないが、他機関とは電話連絡等で連携を取っている。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	3		重症心身障害児は利用していないが、協力医療機関と連絡体制を整えている。

護 者 と の 連 携	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		進級および進学等の場合支援情報提供書を作成しお渡ししている。	今後も保護者様に確認および了承のもと、支援情報提供書を関係機関へ提出する。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		進級および進学等の場合支援情報提供書を作成しお渡ししている。	今後も保護者様に確認および了承のもと、支援情報提供書を関係機関へ提出する。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		お子さまの情報共有を都度行っている。	お子さまや保護者様との関わり方等、必要な情報を都度連絡交換している。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	お子さまの通う園等と連絡を取り情報交換をしている。	障がい児、健常児の交流機会はないが、今後そのような機会を持てるように職員間で話し合っていく。

	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4	職員各自が調べ参加をしている。	・今後積極的に参加をしている。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		支援後、フィードバックでお子さまの情報を共有している。	今後も保護者様とお子さまについて情報確認をし、課題等の共通理解を持てるように取り組んでいく。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	2	ご家庭等でのお子さまとの関わり方についてお話しをしている。	今後もお子さまへの関わり方等、保護者様が出来る範囲の支援について伝えていく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に詳しく説明をしている。	今後も契約時に丁寧に説明を行っていく。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		初回ご利用時に個別支援計画書を確認していただいている。	保護者様のニーズが取り入れられている個別支援計画書を作成し、同意をいただけるようにする。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者様によってはご利用日以外でも相談にのっている。	保護者様の様子を常に確認し、困り感等について話を聞き適切な助言が行えるようにする。

	⑳	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	不定期ではあるが保護者交流会を行っている。	今後定期的に行えるように機会を検討する。	
	㉑	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		保護者様のご要望をまずは確認し可能な限り対応している。	今後も保護者様から相談等があった場合、丁寧に傾聴し迅速に対応を行う。	
	㉒	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		小集団イベントの予定を都度チラシで発信している。	今後も都度チラシや手紙等を作成し保護者様へ周知していく。	
	㉓	個人情報の取扱いに十分注意している	6		鍵付きキャビネットに保管している。	個人情報については厳重に保管をしていく。	
	㉔	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		話が伝わりにくい場合書面でお渡ししている。	今後も言葉によるコミュニケーションだけでなく、視覚的に分かりやすいように行う。	
	㉕	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		今後は地域全体と交流機会を持てるように運営を図っていく。	
	非常時等の対応	㉖	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2		周知だけではなく実際に想定した訓練の機会を増やして行っていく。
		㉗	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2	月1回避難訓練実施。	訓練の機会を増やし、必要な時に動けるように準備を行う。
		㉘	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			現在てんかん等で服薬しているお子さまはいないが、保護者様へお子さまの服薬状況を随時確認している。
		㉙	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4		事業所では食べ物を一切扱っていないが、保護者様へアレルギーについて確認は取っている。
㉚		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			ヒヤリハットについては事業所内で記録を残し情報共有している。	

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待のケースはないがお子さまへの虐待防止、虐待に繋がらないように職員間で話し合いを行う。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3	身体拘束のケースはないが、お子さま、保護者様、職員に危険が及ぶ場合の対応等について職員間で話し合いを行う。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」姥ヶ山校 保護者等数（児童数）24 回収数 14 割合 58%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13	1			落ち着いた空間で子どもも集中できて良い。	今後もケガ等が起きないように環境整備に努めます。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	13			1		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	11	2		1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	13	1			広すぎず狭すぎずちょうどよい。	お子さまの特性に合わせて都度環境設定を図ります。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	14					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	14					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	14					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	13	1			道具が同じでも内容が違うのが凄い。	お子さまが飽きないように今後も支援内容に変化を持たせます。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	2		8		
保護者への説明	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	14					

明 等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	7	2	1	4		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	14					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	1	1		家でのこと等アドバイスをしてくれるのがとても助かる。	今後も保護者様のお悩み等傾聴し、少しでも不安などが軽減できるよう対応致します。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	2	2	6		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	13	1				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14				説明が丁寧で分かりやすい。	今後も分かりやすく丁寧にお伝え致します。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11	1		2		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	13			1		
	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	8	2	1	3		
非 常 時 等 の 対 応	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	1	2	5		
	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	14				通うのを毎回楽しみにしている。	お子さまにまた来たいと思っていただけるように努めます。
満 足 度	㉓	事業所の支援に満足しているか	14				小集団イベント等で他の子どもと関われるのが良い。	常に保護者様やお子さまの声に耳を傾けより良い支援をご提供できるように致します。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。